

## ナチュラル&オーガニック原料

# 環境配慮型原料のニーズ高まる

矢野経済研究所の調査によると、2020年度の国内自然派・オーガニック化粧品市場は前年度比5.5%減の1330億円を見込む。新型コロナ拡大に伴う外出自粛や店舗休業、時短営業などが市場マイナス要因となったものとみられるが、化粧品市場全体と比べるとその縮小幅は小さい。化粧品市場全体がインバウンド消費に下支えされていたのに対し、自然派・オーガニック化粧品市場においてはその割合が高くなかったことも要因の1つといえるだろう。

また、サステナブルなライフスタイルを目指す消費者が増加傾向にあることや、マスク着用により敏感肌を自覚する消費者が増えていることなどが、今後の市場拡大を後押しするものと考えられる。

(上原)

日本政府は、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという目標を掲げており、こうした政府目標への対応に向けて、企業も取り組みを強化している。

なお、製造過程で生まれた副産物や、本来であれば捨てられていた廃棄物に手を加えて、より価値の高い製品に変換する「アップサイクル」については、化粧品業界のほか、食品業界、アパレル業界など広く取り組まれており、原料各社もアップサイクル原料の提案を強化している。サステナブル・クリーンな考え方に基づく製品開発が推進されるとともに、こうしたアップサイクル原料のニーズはより一層高まっていくことだろう。

企業の社会的責任として、責任ある調達に対する

関心の高まりから、トレーサビリティが確保された原料も引き合いを集めている。製造過程に環境負荷の低減につながる仕組みを取り入れたものや、RSPO認証に対応した原料の需要も高まっている。

環境に対する生活者の意識は年々高まりつつあり、若い世代ほどSDGsに対するモチベーションが高く、商品購入の指標として意識する傾向にある。また、環境配慮と性能を両立した自然派・オーガニック化粧品も数多く展開されている。生活者の意識の高まりとともに、今後の国内自然派・オーガニック化粧品市場は拡大していくものと考えられる。

(掲載企業一覧 = 岩瀬コスファ、阪本薬品工業、一丸ファルコス、成和化成、山川貿易、高研、ファーマンステーション、太陽化学)

## 数多くのサステナブル原料を展開

### 岩瀬コスファ

岩瀬コスファでは、幅広くサステナブル原料を展開している。

トウモロコシ由来の糖を発酵させ、得られた植物由来グリコール「Zemea Select Propanediol」(Primient Covation LLC社、Zemea Select PropanediolはPrimient Covation LLC社の登録商標)は、100%天然由来のサステナブル原料で、ライフサイクルアセスメント分析(LCA)という手法を用い、環境負荷を定量的に評価している。製造過程において、石油由来の「1,3-プロパンジオール」と比べて温室効果ガス排出量とエネルギー使用量をそれぞれ56%、42%削減でき、プロピレングリコールよりもそれぞれ42%、38%の削減になる。

また、角質水分量の向上作用が確認されており、グリセリンとの併用により優れた保湿効果を示し、べたつきの少ない、しっとりすべすべの使用感を与える。毛髪には、しっとり感、落ち着き、軽さ、やわらかさを付与する。

毛髪水分量を測定するリーブオンのモニター評価では、通常の洗髪後にタオルドライした頭髪を左右に分け、サンプル(5%水溶液)を適量塗布した後ドライヤーで乾燥させた。これを2日間繰り返し、翌日毛髪の感触を評価したところ、グリセリン等と比べて「つるつる感・柔らかさ・落ち着き具合・さらさら感・しっとり感」すべての項目において同等かそれ以上の使用感が得られた(図1)。シャンプーへの配合においても同様の結果が得られ、特にしっとり感・落ち着き具合において従来のポリオールを上回る使用感が得られた。

「スクラビューティ MX」はミロネクトンと寒天からなる100%海洋由来の崩壊性スクラブ剤である。天然無機物質のミロネクトンは、数千年前に埋没堆積した海洋動植物(殻、魚類の各種ネクトン、プランクトン、藻類、海草その他の生物類)に由来する。ミロネクトンは、微生物による分解・代謝・再合成な

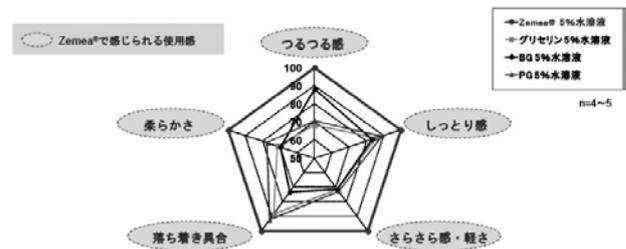


図1 毛髪水分量を測定するリーブオンのモニター評価

どを繰り返してできた腐食泥が、太平洋プレートの地殻変動の結果、地塁上に突出し、衝上断層を生じて出来上がった福島県棚倉町の東西に伸びる棚倉破砕帯より採掘されており、「タナクラクレイ(化粧品表示名称)」として化粧品に利用されている。

ミロネクトンは多孔性に富み、皮膚表面上の垢や汚れを吸着する効果が期待できるほか、各種ミネラル成分が豊富で肌にうるおい感を付与する。

また、安心・安全への取り組みとして、放射性物質の全ロット検査を実施し、COSMOS認証も取得済である。このミロネクトンを高度な造粒技術により適度な硬度とサイズにコントロールした「スクラビューティ MX」は、マイクロプラスチックビーズ対策品として注目を集めている。使用時に崩壊するため肌あたりが優しく、洗顔料等におすすめの原料であり、マッサージ効果にも優れている。中国INCI、医薬部外品にも対応している。

天然由来の増粘剤「Kelco-Care diutan gum」(ルーブリゾール社、Kelco-CareはCP Kelco社の登録商標)は、微生物発酵生産から得られる原料で、0.05~0.5%と少量添加でも粘度と安定性を付与できることに加え、耐電解質性とpHに依存しない性能を特長としている(pH 3~10)。優れた感触とマイルド性もち、幅広い種類のオイルやエモリエント剤と相性がよい。

また、電解質と併用することにより、相乗効果で

さらに粘度と安定性を付与できることが確認されており、有効成分等を溶解させる際の処方上の課題をクリアできる。電解質存在下における、粘度と安定性を確認する試験では、電解質未添加時と0.5%NaCl添加時を比較した。その結果、電解質未添加時と比べ、0.5%NaCl添加時では最適な粘度と安定性が付与されており、電解質未添加時の増粘の挙動は緩やかであるのに対し、電解質を添加することで相乗的に粘度が向上することが確認された（図2）。

ほかの増粘剤との併用による相乗効果も確認されている。電解質存在下においてキサンタンガムと併用したところ、粘度・降伏値ともにシナジー効果が確認された。さらに、ほかの天然由来増粘剤（グアーガム・タラガム・ローカストビーンガム）との併用下でも、シナジー効果が確認されている。

官能テストを実施したところ、一般的に増粘剤として用いられるグアーガムやキサンタンガムなどと比べて、残り感の少なさやベトつきのなさなどが顕著に表れた。そのため、スキンケアやサンケアなど

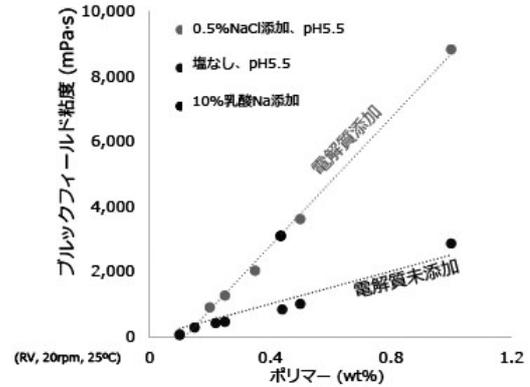


図2 電解質との併用で粘度が向上

に適した感触やマイルド性が期待できる。また、幅広いエモリエント剤やオイルと相性がよく、高配合で使用できるほか、UVフィルター（有機および無機）と顔料との相性もよい。

ビーガン対応のほか、再生可能炭素指数が0.95と高く、分散が容易でコールドプロセスも可能と、幅広い側面から環境配慮にアプローチできる原料となっている。

## 天然グリセリンがベースの機能性原料が好調

阪本薬品工業

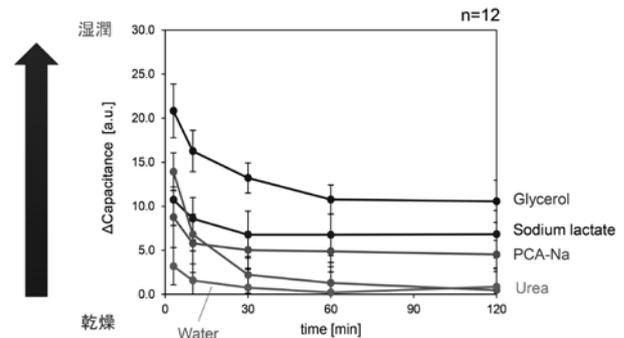
天然グリセリンの国内トップメーカーとして知られる阪本薬品工業は、化粧品用の保湿剤であるポリグリセリンをはじめ、乳化剤・油性基材に用いられるポリグリセリン脂肪酸エステルの販売がいずれも好調に推移している。

同社が製造している植物由来の天然グリセリンは環境・社会に配慮した、持続可能なパーム油の生産と利用を促進する取り組み～RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil) ～に賛同している。グリセリンだけでなく、ポリグリセリンやポリグリセリン誘導品についても2017年5月にRSPOサプライチェーン認証を取得し、RSPO MBグレードの出荷を行っており、日本国内のみならず海外からも高い評価を得ている。

ポリグリセリン及びポリグリセリン脂肪酸エステルでは、保湿、乳化、可溶化、分散、油剤、増粘などの幅広い機能を有した製品をラインアップしており、PEGフリーのニーズの増加に合わせて、スキンケア、メイクアップ、ヘアケアなど幅広い化粧品に提案している。

「保湿剤のジグリセリン『ジグリセリンS』は、少量配合でグリセリン高配合時のべたつきを抑制し、ポリグリセリン-3『PGL-S』は、高配合してもべたつき感がなくしっとり感が付与できる。種々の重合度のポリグリセリンの組み合わせで幅広い使用感が実現できることから、新規採用が増えている。また、グリセリンとジグリセリンに関しては、グリセリンが角層細胞中の水を保持し、さらにジグリセリンが細胞間脂質の構造を安定化することを発見した。こうした保湿機構の解明は、取引先から高評価を得ている」(同社)

阪本薬品工業では、グリセリンに関する最新の知見として、昨年9月に開催された日本油化学会第60回年会にて「角層保湿におけるグリセリンの優位性の実証研究」の発表を行った。



→ グリセリンは NMF に比べ、水分低下が緩やか。

図1 グリセリン、天然保湿因子の保湿効果

保湿を目的とする化粧品や医薬品には、グリセリンや天然保湿因子 (NMF) のような保湿剤が配合されている。これらの保湿剤は、角層中の水分と結合することで効果を発現することが知られているため、その分子構造によって保湿効果が異なると予測される。

そこで、同研究では保湿剤としてグリセリン、乳酸ナトリウム、ピロリドンカルボン酸ナトリウム (PCA-Na)、尿素を用い、各保湿剤の10wt%水溶液を皮膚に塗布し、保湿効果を調査した。塗布後3分から120分における角層水分量の経時変化を Corneometer CM825 (Courage+Khazaka製) で追跡し、塗布前からの増加量 (△角層水分量) より保湿効果を評価した。

その結果、いずれの保湿剤を用いた場合にも、角層水分量は時間経過とともに低下した後、一定の値に収束するという推移を示した。その中で、NMFはいずれも30分後に角層水分量が一定の値になったのに対し、グリセリンは60分後に収束したことから、グリセリンはNMFに比べ水分量の低下を緩やかにすることを確認した。

また、グリセリンは全ての時間でNMFよりも有意に角層水分量が高い値を示し、グリセリンは

NMFと比較して保湿効果に優れることが明らかとなった（図1）。

さらに、同研究では尿素とグリセリンを併用することで相乗的な保湿性を示すことも確認され（図2）、尿素とグリセリンを併せて配合することで保湿性の高い化粧品を設計できる可能性が示唆された。

併用によるメリットは保湿性のみならず、べたつきのあるグリセリンと軋み感のある尿素のネガティブな官能が組み合わせることにより、保湿性を維持したまま心地よい官能の化粧品開発につながるという。

「保湿剤以外では、乳化剤であるポリグリセリン脂肪酸エステルがPEGフリー化粧品のニーズの高まりを受け、近年引き合いが増えている。中でも『SYグリスター CRS-75』と『Sフェイス IS-201P』の組み合わせによるW/O乳化剤が好評で、幅広い油の乳化が可能でべたつきがなく、サンスクリーンやリキッドファンデーションでしっとり感が得られるため、スキンケア効果を付与したコンセプトの製品に最適である。また、化粧水などに用いられる香料

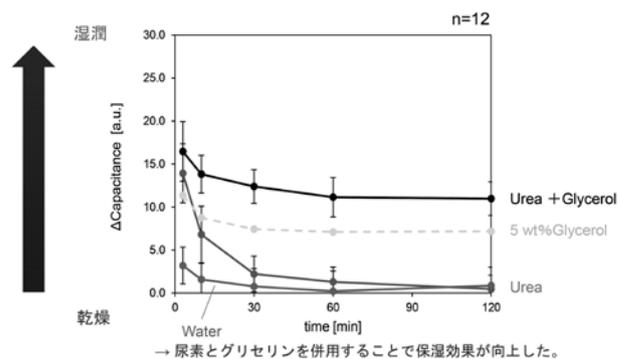


図2 尿素とグリセリンを併用した効果

や精油の可溶化剤『Sフェイス 10G-L』と『同10G-IS』は、可溶化性能が高く、べたつきがなく、ほどよいしっとり感が得られるのが特長だ。PEGフリーのニーズは今後も高まっていくことが予想され、安心して使用してもらえる原料の提供に努めるとともに、当社の専任研究員が専門知識に基づき、様々なアプリケーションにおいて最適な機能・処方提案を行い、お客様の製品開発をより一層サポートしていきたい」（同社）

## 法規制などの海外対応とSDGs活動を強化

### 一丸ファルコス

一丸ファルコスは、化粧品・医薬部外品、健康食品分野で機能性原料の研究開発を行っており、天然由来原料を中心に約1000品目をラインナップしている。近年は中国での販売も視野に入れた商品企画が増えていることから、中国の原料規制にも対応した原料開発を行っている。中国「化粧品監督管理条例」で昨年施行された新管理規定への対応も進め、350製品以上の登録を終えている（2022年6月現在）。

それら登録原料は、登録会員制のWeb版製品カタログ「ICHIMARU WebPG（プロダクトガイド）」で随時確認できるようになっている。

同社は、「規制対応期間が23年1月までとなり、中国の新たな原料規制に関する自社オンラインセミナーへの参加者は多く、WebPG会員数も伸びてきている」と話す。

業界関心度が高いことから、今後も自社セミナーやWebサイト「ICHIMARU CHANNEL」を通じて情報発信していく考えだ。

近年では、「ISO16128」に基づく化粧品の自然及びオーガニックに係る指数の問い合わせも欧州メーカーだけでなく国内メーカーからも増えているという。「ISO16128」の指数についても、会員制サイト「ICHIMARU WebPG」に情報を更新している。

天然由来の一部原料ではオーガニック植物を使用し、オーガニック原料としての品質確保や信頼性向上を目的に、欧州のオーガニック化粧品に関する統一基準となる「COSMOS Approved」（エコサートグリーンライフ社）の取得も行い、併行して、新たに発売する原料では植物由来溶媒を用いた製造を積極的に進めている。

同社は、原料の付加価値化にも取り組んでおり、近年では最終製品への配合で、SDGsへの取り組みを推進できる原料ラインナップも拡充している。代表的なのがアップサイクル原料で、サケ鼻軟骨から製造したプロテオグリカン、白ワインのブドウ絞り



社員による宮古島の海岸清掃活動

かすから製造したクロノシャルディだ。

天然・自然由来原料の開発では「以前から、安定供給できるかどうかを重視して、加工副産物や食品残渣などの未利用資源を用いて製品化を進めてきた」（同社）こともあり、新規原料だけでなく、既存原料もSDGsを絡めて新たな原料価値の創出を図っている。

中でも、アロエベラ・オクラなどの宮古島産や沖縄産の素材を用いた化粧品原料の売上の一部を、産地の沖縄でサンゴ礁保全などに取り組むNPO団体に寄付する環境保全プロジェクトは、賛同・共感する企業が増加しているという。プロジェクトは2011年よりスタートしているが、SDGsの認知拡大とともに、ここ数年でプロジェクトや、NPO団体のロゴを最終製品のパッケージに記載したいとの問い合わせ件数も増えている。

今年の春には、同社社員が現地に赴いて海岸清掃に参加し、活動の生の声を届ける取り組みをスタートした。今後は該当原料を採用する最終メーカーも保護活動に参加できる仕組みを確立していく。

「コロナ禍の状況にあって業界全体の環境活動への機運の高まりを感じている。今後もプロジェクトを推進していく」（同社）

## ダイズ由来の新規ヘアケア原料を開発

成和化成

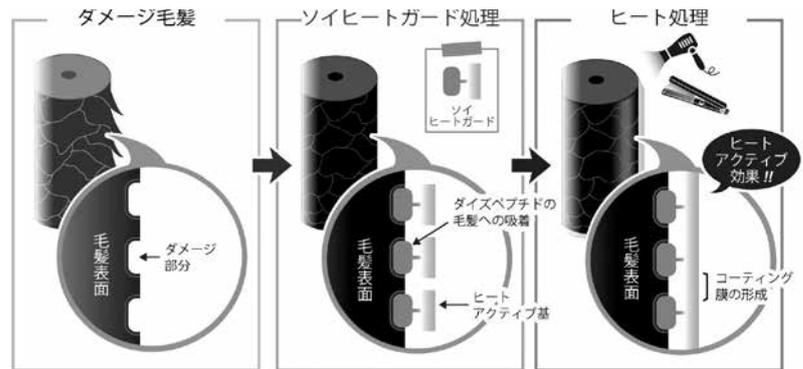
化粧品・医薬部外品原料の研究開発メーカーである成和化成は、タンパク加水分解物「Promois（プロモイス）」シリーズから、新規ヘアケア原料としてダイズタンパク質の誘導体「ソイヒートガード」（製品名：Promois WS-HSIGPD）の開発に成功し、今年6月より販売を開始している。

「ソイヒートガード」は、ドライヤーやヘアアイロンの熱に反応し、髪を1本1本コーティングして美髪へと導く作用（ヒートアクティブメカニズム）が確認された機能性ヘアケア成分。ヘアドライやスタイリングの時に使用するドライヤーやヘアアイロンの熱による髪のダメージを気にする人が増え、アウトバストリートメントやヘアオイルなどのケア商材の需要が高まっている。

ソイヒートガードは、そのようなケア商材やシャンプー、コンディショナー、トリートメントなどドライヤー前に使用する頭髮製品に配合することで、熱から髪を保護して髪ダメージを防ぐ。また、その熱を味方にして、スタイリング効果をキープすることができる。中国向け製品や医薬部外品にも対応している。

同社は、天然由来のタンパク加水分解物の研究開発において、これまでにケラチン、コラーゲン、シルク、ミルク、パール、ダイズ、コメ、エンドウ、ゴマといった天然素材のタンパク質とその誘導体を、化粧品原料として製品化しており、理美容室向けの業務用ヘアケア製品に多く採用されている。

近年は、一般セルフ市場においても、シャンプー&コンディショナーの高機能化や、シリーズにトリートメント、ヘアオイルといったアウトバスタイプをラインナップするブランドが増え、ホームケア製品での採用実績も伸びてきている。今年4月には、



ヒートアクティブで熱を味方に髪のダメージを防ぐ

ケラチン代替原料として提案しているエンドウ由来の「ボタニカルケラチン」（Promois WJ-SP）が、ドイツでオンライン開催された国際化粧品アワード「第20回BSB Innovation Award」の機能性原料（保湿）部門で1位を受賞し、海外でも高い評価を得て、注目を集めた。

新たに開発したソイヒートガードは、保湿効果に優れたダイズタンパク質に、熱を利用して美髪を保つヒートアクティブ基を導入した原料で、本来、髪のダメージの原因となる熱を味方にして美髪へと導く。

ソイヒートガードは、髪のダメージ部分に吸着するダイズタンパク質部分と、熱反応性を有するヒートアクティブ基が存在する。ソイヒートガードを塗布すると、ダイズタンパク質部分がダメージ部分に吸着して髪を補修する。そこにドライヤーなどの熱を与えると、熱反応によってヒートアクティブ基同士が結合することで、コーティング膜を形成して髪を保護する（図）。

同社は、髪にも地球にもやさしい製品を求めるナチュラル・オーガニック志向の高まりを踏まえ、「Promois（プロモイス）」シリーズでは、今後も天然由来の製品を拡充し、様々なヘアケアの商品企画に対応できるシリーズへと育成していく。

## 毛穴ケアに有効な天然成分を提案

山川貿易

欧州系原料メーカーを中心に商社機能を備える山川貿易は100%天然由来の有効成分を用いたCOSMOS承認原料である「PORE-REDUCTYL NT」を提案している。

PORE-REDUCTYL NTは、北米やヨーロッパに広く分布する針葉樹の原生林に自生するキノコである、Fomes officinalis に由来しているという。

Agarikon(和名:エブリコ)とも呼ばれ、アガリン酸を含有する古代ヨーロッパで最も重要な薬用キノコで、収れん作用、引き締め作用、保湿作用があると言われている。

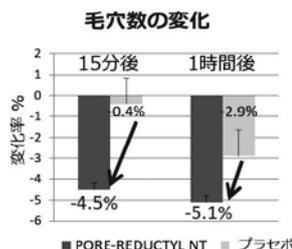
昨今、健康な肌を保つために、毛穴ケアの重要性が提唱されている。健康的な肌を保つには、清潔で健全な毛穴の状態を維持することが重要となっており、過剰な皮脂、ストレス、喫煙、環境汚染、これらはすべて毛穴を拡大、変形させる原因となっている。

PORE-REDUCTYL NTは、そんな毛穴悩みに応える毛穴を引き締める天然の収れん剤である。

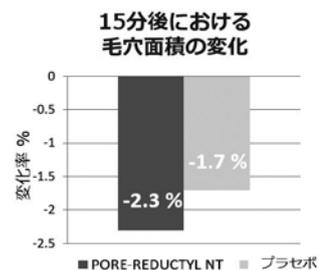
脂性肌は油分によるテカリが顕著で、毛穴が大きく開いていることがある。

その場合、PORE-REDUCTYL NTを配合すると、

図



PORE REDUCTYL NTは、適用15分後に4.5%、1時間後に5.1%の毛穴数の減少を示しました。  
\* p<0.05



PORE REDUCTYL NTは、適用15分後に毛穴面積を2.3%減少させました。

過剰な皮脂分泌による肌悩みである毛穴の目立ちや肌のテカリを最小限に抑えることが可能だという。

アガリン酸は天然の収れん剤で、過剰な皮脂分泌をしっかりと抑え、肌をなめらかにし、毛穴を引き締め、潤いを与える。

年齢を重ねると、肌の弾力性は低下していく。表皮基底層の細胞活動が低下すると、環境因子からの攻撃に対する防御機能が低下し、その結果細胞のターンオーバーと活力が低下し、肌のハリが失われてしまうというが、PORE-REDUCTYL NTは、即効性のある肌の引き締め効果も有している。

15名の被験者に3% PORE-REDUCTYL NTとプラセボを単回塗布した後、同一の照明効果と3次元ポジションマッチング機能を備えた顔の皮膚画像解析カウンセリングシステム「Visia」を用いた画像解析により毛穴への即時効果(数と面積)を評価する臨床試験を行った。その結果、適用15分後には4.5%の毛穴数の減少、毛穴面積を2.3%減少(図)し、ほかにも毛穴の目立ちを18.3%減少させ、適用後すぐに毛穴縮小効果を示したという。

PORE-REDUCTYL NTの収れん作用と毛穴引き締め作用は、肌を乾燥から守り、毛穴を引き締めて目立たなくしながら、みずみずしい潤いを与え、肌をしなやかにするという保湿効果も有している。また、収れん作用によって制汗効果も働く。

針葉樹の原生林に自生するキノコ



# 薬剤を一切使用しないノンケミカル製法

高研

高研と三和油脂との共同開発品「コメ圧搾オイル」は、純国産・ノンケミカル製法にこだわった美容成分豊富なプレミアムライスブランオイルで、美白作用・UV吸収能があるγ-オリザノールや、抗酸化効果のあるビタミンE・スーパービタミンEを含有している。ダメージケア効果も期待でき、UV・太陽光による毛髪ダメージを防ぐ。櫛通りを改善し、まとまりのあるつやのある髪に仕上げる。

一般的なコメヌカ油は、有機溶剤（ノルマルヘキサン）や化学薬品等を使用し製造される。コメ圧搾オイルはそれら薬剤を一切使用しない、独自のノンケミカル製法にこだわり、スチームを使った精製法を採用している。豊富な機能成分を残しながら、1週間以上かけて丁寧に精製するという。薬剤に頼らないナチュラルな製法により、米ぬか本来の機能性成分はそのままに、肌に触れても安心な、パワーに満ちたライスブランオイルに仕上げている。

米ぬかの鮮度にもこだわっている。米ぬかは精米すると同時に酵素（リパーゼ）による脂質の分解が起こって酸化してしまう。フレッシュなまま短時間で加工するため、トレーサビリティが確立された国産米を国内で加工している。さらに独自のフレッシュキーププロセスにより、劣化の原因となるリパーゼを失活させ、鮮度を維持した米ぬかを用いることを可能にした。

保湿効果のヒト試験では、各検体を配合した乳液

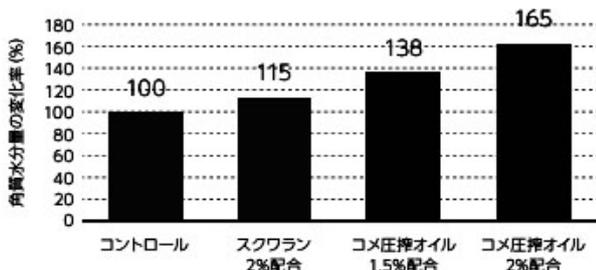
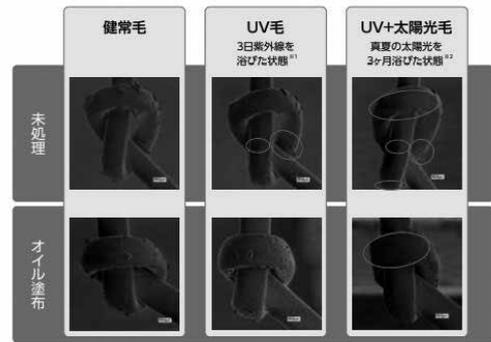


図1 保湿効果（ヒト試験）



※1 UV処理:波長254nmを3J/cf 照射 (UVBの1日積算量は1~2J/cf)  
 ※2 太陽光処理:波長300~800nmを6.5時間(計180J/cf:真夏の正午に1時間外にでいた時の3ヵ月相当)照射

図2 毛髪保護効果（UV・太陽光）

を塗布し、5分後の角質水分量の変化を算出した。その結果、コメ圧搾オイル1.5%以上を配合することで保湿効果が約40%増加しており、スクワランに比べて高い保湿効果を有することが確認できた（図1）。

毛髪保護効果の試験も実施している。未処理またはコメ圧搾オイル塗布の健康毛にUVおよび太陽光を照射し、毛髪状態を走査電子顕微鏡（SEM）にて観察したところ、未処理に比べ、コメ圧搾オイルを塗布した方がダメージが小さく、UV・太陽光に対する保護効果を確認できたことから、コメ圧搾オイル塗布による毛髪のUVケアが期待できる（図2）。

「オイル類は分析がしにくく、あまりエビデンスがないケースも多いが、同品はスキンケアからヘアケアまで幅広くデータを揃えている。また、紫外線吸収能をもつオイルは珍しく、界面活性剤フリーの処方したい、ナチュラルな原料に置き換えたいといった市場ニーズにもマッチし、多くの引き合いをいただいている。クレンジングバームやマルチに使えるオイルのほか、ヘアケアへの採用も増えている。3日以内に圧搾するなど鮮度にこだわっているため米ぬか油特有の匂いもほとんどせず、人気のアルガンオイルよりも酸化しにくく扱いやすい」（同社）



## 特徴的なナチュラル原料を提案

太陽化学

太陽化学は化粧品原料の主軸としてポリグリセリン系界面活性剤とともに、ナチュラル原料にも注力している。

サンソフトAPシリーズは、アンズ核油とポリグリセリンで作られた100%植物由来のコンディショニング成分だ。

シャンプー、コンディショナーにそれぞれ配合することでさらに感触改善効果が高まり、根本から毛先までコンディショニング効果を発揮し、髪にさらっとしたなめらかな指通り、やわらかさを付与するという。

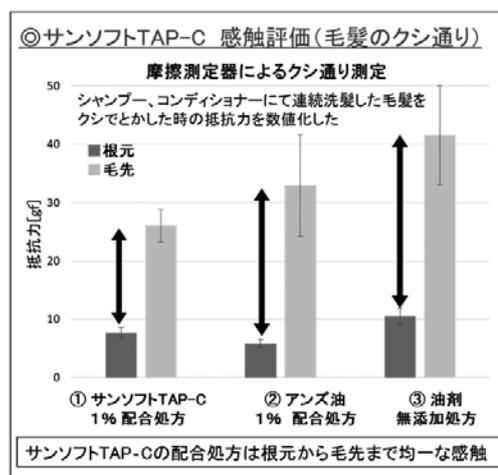
シャンプー向けのサンソフトAPF-Cは、起泡力と粘度の低下の問題なく洗浄処方に配合することが可能で、速乾性の付与や洗髪によるダメージを軽減するという効果がある。

コンディショナー向けのサンソフトTAP-Cは、髪の毛の根元だけでなく、ダメージのある毛先にも付着し、均一にコンディショニング効果を発揮し、乾燥後もアンズ油特有の軽くまとまりのある感触が得られ、翌日もその効果が持続するという。

「現在ファブレスのヘアケアメーカーが増加しているが、ノンシリコンのシャンプーでの指通り感や、速乾性に対するニーズも増えており、ナチュラルをコンセプトとしたヘアケア製品での採用が進んでいる」(同社)

100%植物由来の高機能可溶化剤であるサンソフト SCP10-Cは、香料・精油を少量の界面活性剤で可溶化することが可能で、幅広い油剤に対応できる。また、REACH、COSMOS認証、RSPO認証にも対応しており、ナチュラルな素材としてのアピールも可能である。

「ナチュラルをコンセプトとした商品の香り付けで精油を多く配合する際、可溶化に悩みを持つお客様から、サンソフトSCP10-Cは引き合いを多くいただいている」(同社)



イソケルシトリンを含有した水溶性粉末製剤であるサンピュアラCENは、同社独自の水溶性製剤化技術を用いて難溶性の物質であるイソケルシトリンを加工している。

紫外線吸収能だけでなく、ラジカル消去能・キレート効果・抗糖化・ブルーライト遮断など様々かつユニークな特徴を持ち、アンチエイジング製品の素材として用いられる。また、直近でニーズが高まっている、ナチュラルなUVケア製品に対しても提案を積極的に行っている。

100%植物由来の加水分解グアーの「サンファイバー RC-C」は粘度を付けることなく泡のきめ細かさや弾力を向上させる泡質改善効果に加え、スキンケア製品に配合することで 摩擦低減効果も期待できる素材として提案を進めている。

さらには、カルボマーの代替として活用が期待される天然由来で使用感の良い増粘剤製剤「ネオソフトNICシリーズ」など様々な製品を展開している。

「高機能のものとなると、全面的にナチュラルに舵を切るのは難しいが、ナチュラルな素材の中で特徴的な機能を有するものを中心に展開していきたい」(同社)